

阿波國 すきま 漫遊記

VOL.23(最終回) 肥壺

〔取材・文・写真〕 深草 縁夫

関東出身・徳島在住のサラリーマン。2000年からサイト『日本すきま漫遊記』を開設・公開。日本各地の寺・神社を中心として、一般には大々的に取りだたれることのないようなマイナー観光スポットをめぐり紹介している。■日本すきま漫遊記 <http://www.sukima.com>

■鳴門市撫養町立岩

肥壺を知らない人が見たら、戦争中のトーチカを連想するかもしれない。撫養の立岩と里浦には多くの肥壺が残っているが、これはその中でも特に繊細な仕上げがされた逸品だ。柔らかな屋根のカープと、フタの縁の面取りのエッジ感が対照的で、左官職人の腕の良さがしのばれる。

肥壺とは

「肥壺（こえつぼ）」あるいは「肥溜（こえだめ）」という言葉は、現代でも比喻として使われるが、実物を知らない人も多いいのではないだろうか。肥溜とは、人の排泄物（尿・屎）しによ（う）を発酵させて肥料にする設備である。辞書の上では「肥壺」は「壺形の肥溜」の意味だが、徳島ではコンクリ製の肥溜のことも肥壺と呼ぶことが多い。



▲ 鳴門市北灘町櫛本

古い形式の肥壺。国道11号バイパスから見え、肥壺の語源がよくわかる。大谷焼のものが、藍が衰退したあとも肥壺として使われた。耕うん機をぶつけて割ってしまうことが多かったという。



▲ 徳島市波野町

雑草に覆われていて、道からは見つけにくい物件。後ろにわずかに見えるコンクリの箱状のものは、大型の肥壺だ。下肥は水で倍くらいに薄めて使ったそうで、このかめは希釈用だったかもしれない。



▲ 阿波市市場町切幡

よく「肥壺に落ちた」という話を聞くが、これは私があわや落ちそうになった物件。2つのかめが埋めてあるのだが、手前のかめは枯れ草に覆われていて見えなかった。写真では撮影のために枯れ草を取り除いた。



▲ 徳島市上八万町

円平面、切妻屋根の肥壺。下肥は水田に使われた。下肥を作るには嫌気性細菌の発酵作用を利用して、寄生虫卵や病原菌を死滅させるのがよいとされているが、必ずしも守られてはいなかったようだ。



▲ 鳴門市撫養町里浦

円平面、円錐屋根の肥壺は里浦に多く見られる。これはフタ部分が大きく、汲み出しやすかっただろう。肥壺の深さは大人の背くらいあるという。子供が落ちたりすると危ないので、本来は木のフタがされる。



▲ 鳴門市撫養町里浦

四角平面、陸屋根で、地表に出ている部分が多い珍しい肥壺。現在は周囲はサツマイモ畑だが、下肥は主に麦畑に使ったという。麦畑といっても小麦ではなく、炊飯用の大麦だった。



▲ 鳴門市撫養町里浦

四角平面、片流れ屋根の3連式の物件。ずいぶんたくさん下肥を貯えられただろう。阪神方面の肥壺は薬津港に着き、そこからは農家の自家用の高瀬舟に積み替えて用水路を使って畑まで運搬したという。



▲ 徳島市上八万町

四角平面、切妻屋根の5連式の大物件。地域の農家が共同で使用している。今は花壇に再利用されているので気付きにくい。ここは「ジソウサンノマエ」という辻で、牛馬の糞場にも使われた場所だ。

（肥床）と言って、決まった契約先からしか汲み取れなかった。料亭のように栄養のあるものを食べる家は肥料の価値も高いからと好まれたという。大都市の尿には仲買人もいて商品として流通した。鳴門市に多くの肥壺があるのは、阪神方面から肥船という船で尿尿を売りにきたからだ。中には水で薄めた尿尿を売る者もいて、買う側も騙されまいと指の先を入れて舐めて確かめる強者もいたとか。大変な時代だったが、食に関しては究極のリサイクル社会だったともいえるだろう。

年くらい前まで、そのころはまだ水洗便所がなく、尿尿はすべて肥料としてリサイクルされていた。廃棄物ではなくて資源だから汲み取る側が対価を払っていたのだ。汲み取り先の家を「コエド

私が道ばたにある肥壺に気がついたのは半年前のことだった。以来、田園地帯を通るときに注意するようにして、30基以上の肥壺を見てきた。ときに



▲ 小松島市田浦町

八角平面、宝形屋根の肥壺。八角形平面は他にも見たことがあるが、宝形屋根は珍しい。傷みが激しく、中が土で埋まっている。田浦町の肥壺は形のバリエーションが多く、個性的だ。



▲ 徳島市波野町

四角平面、切妻屋根は、波野、八多方面に多い。いまは担糞船が多いが、昔は水田だった。この家では、水田には下肥は使わず、麦畑にだけ使ったという。水田に使う家は、肥びしゃくで豪快に振りまいたそうだ。



▲ 肥びしゃく

下肥をくむための専用のひしゃく。とても丁寧に作られていて、持ってみると柄のバランスもよく手になじむ。汲み取りから帰ってきたら肥たご（桶）や、肥びしゃくはすぐに洗っておく。



▲ 徳島市波野町

地上に出ている部分がわずしかかなく見つけにくい物件。波野町から徳島中心街まで10kmの道のり。それ、大八車で汲み取りに行った。途中、何ヶ所か上り坂があるとこでは、お嫁さんや子供が迎えに来て後者を押したという。

おわりに

さて、2年間続いたこのコラムも今月で最終回。徳島にはまだ紹介していない「すきま物件」がいっぱいもあるし、私が入り付いていないジャンルもたくさんあるだろう。だからこれからも、徳島のすきまをどこまでもタイプに探索していくつもりだ。そしていつかまた誌面でお目にかかることもあってもいい。そのときまでごきげんよう。